

KURUMI 恋こい

Nursing

平成28年3月3日

第51回卒業式



学校長あいさつ

今年も感動的な卒業式と謝恩会が行われ、第51回生が立派に巣立っていきました。彼女・彼たちの母校愛と友情は強く熱いものがあり、呉看護学校の良き伝統は継承されています。第51回卒業にあたり『和顔愛語』という言葉を贈りました。穏やかな笑顔と思いやりのある話し方で人に接するという意味です。そうすると相手だけでなく自分までも幸せになるという意味も込められています。病院運営方針の英語表現“LOVE AND SMILES”に該当する言葉でもあります。病院理念『相手の心情に寄り添う愛のある医療を笑顔で実践します』を心に刻み、笑顔を絶やさず相手の心情を思って寄り添い、愛のある看護をおこなっていきましょう、と呼びかけました。

第51回生を含むすべての呉看護学校同窓会各位のご多幸とご活躍を祈念しています。

国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校 学校長
呉医療センター・中国がんセンター 院長
谷山 清己



戴帽式



53回生 誓いの詩

誓いの詩を考え全員でどんな看護師になるか誓いました。

- 一、 責任を持ち、誠実な心と態度で患者さんから信頼される看護師になります。
- 一、 相手の立場に立って、優しさや安心感を与えられる人間性豊かな看護師になります。
- 一、 科学的根拠に基づいた知識と技術を身につけ、どんな時でも患者さんのために看護を創造することのできる看護師になります。

戴帽式を終えて

副学校長からナースキャップをつけていただき、53回生全員で誓いの言葉を唱え改めて自分たちの看護師像を固めました。今後は、学習面だけでなく技術を身につけ、患者さんのことを第一に考え看護を行うことができるように精進していきたいです。



2年生に向けて

Aクラス

この1年間で実習やテスト、技術試験と必ず乗り越えないといけない大きな壁があり、看護師という職に就く大変さを痛感し、看護を行う上で大事なことを学んでいる最中です。2年生の後期からは本格的な実習があります。日々の学習を大事にし、成長できるように1人1人が責任感を持ち行動していきたいです。これからいろいろなことがあると思いますが、53回生みんなで支え合い頑張っていきたいです。



Bクラス

戴帽式を終えて、自分達の思い描く看護師像を強く持ち、気が引きしまったように感じます。日々のテストや技術チェックなどに追われてつらいことも増えていくと思いますが、53回生全員で乗り越えていきたいと思います。



演習風景

口の中に管を入れて、痰をとりますね



鼻から痰をとりますね



吸引の演習

「吸引」の技術は身体侵襲を伴う技術であるため、患者さんの苦痛に配慮し、安全に痰を取り除けるよう練習しています。

2年生



8月、9月の基礎看護学実習を終え、本格的に各論実習が始まりました。様々な実習科目があるなかで実習させていただく科目に見合った事前学習に熱心に取り組み実習に向かいましたが、学んだことを実際に患者さんと関わりの中で活かすことの難しさを感じました。しかし、グループでのカンファレンス等を通して日々今大切な看護は何かを考えながら患者さんと関わることの大切さを学ぶことができました。今後も熱心にご指導して下さる看護師さん、先生方、私たちを受け入れて下さる患者さんに感謝の気持ちを忘れずに実習に励んでいこうと思います。



本格的な実習が始まり、疾患の症状・治療の流れや経過、それに伴う患者さんの心情やその関わりを実際に経験することで、それらを把握して見合った看護を提供することの難しさを改めて感じました。また、患者さんと向き合って傾聴することが不安の軽減や治療に対する意欲につながる事を実感しました。しかし、教員や看護師、メンバーからの助言を頂きながら自分の出来る限りを尽くして、乗り越えることができました。



亀山神社参拝 試験勉強の合間にみんなで参拝しました。リフレッシュもでき、良い思い出になりました。



出陣式

先生方と下級生からの直筆のメッセージ嬉しかったです！卒業生の先輩方も激励に駆けつけてくださいました。



国家試験当日

今年は黒瀬の国際大学で受験させて頂きました。元気にバスで行ってきました。先生方が温かく見送ってください、呉看生らしく笑顔で乗り切れました。

卒業式



第51回卒業式が3月3日(木)に開催されました。

送辞

私達後輩にとって、この呉看護学校で先輩方と共に過ごし学んだ2年間は、とても得難い貴重な経験であり深く心に刻まれています。

実習体験や勉強方法など様々なことを教えてくださいました。先輩方の温かい励ましや優しさは、不安をやる気へと変えてくださったことを今でも覚えています。頼もしさや優しさは私たちの憧れでした。

就職・進学と進む道はそれぞれ異なりますが、この呉看護学校で学んだことや経験を活かし夢に向かって大きく羽ばたいてください。

答辞

医療・看護の専門知識を理解する難しさ、看護技術の習得や臨地実習に悪戦苦闘しながら、呉医療センターの医師、看護師の方々、院外の講師の方々、先生方にご教授頂き、日々学びを深めていきました。

これまでの3年間、多くの方々に支えていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今後、皆さまからご教授頂き身につけることができた知識・技術、人を思いやる心を持って患者さんの心に寄り添った看護を目指し、理想とする看護師像に近づけるよう日々努力してまいります。



予餞会を終えて

第51回予餞会が2月29日に開催されました。

国家試験も終わり、春からそれぞれの道へ旅立って行かれる51回生のみなさん、呉看護学校で学んだこと、過ごした日々を胸にこれからも頑張ってください。ますますのご活躍を期待しています。



TOPICS

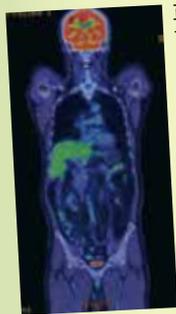
『専任実習指導者が導入され、学生の学びが深まっています』

2015年11月に 呉医療センターに PET-CTが導入されました。

全身のがんを一度の検査で見つけ出す検査、PET-CTが導入されました。患者さんの異常の早期発見できるようになりました。



今まで、広島までいかないと出来なかった専門的な検査が、ここ(呉)で出来るようになって良かった。



正面からみたとろ、脳(白矢印)や肝臓(赤矢印)などブドウ糖の消費の多い臓器に集積が目立ちます



PET-CTで20分ほど撮影をします



『終末期の実習で専任実習指導者さんによる実習指導を受けて』

『小児看護学実習の学び』

専任実習指導者さんがおられることで、日々の実習の様子を継続して見てくださっているため、分からないことがあれば質問すぐに解決することができました。その時には一緒に考え一つ一つ丁寧に指導していただき、より患者さんの個性を大切に看護を行うことができました。患者さんの希望を尊重したやり方やペースを大切にすることが、その人らしさを大切にすることに繋がると学びました。今までは一人一人報告、連絡、相談メンバー間での情報共有まで行き届かないことがありました。しかし今回の実習では他のメンバーへのご指導もしっかり聞くことができ、治療や援助について新たに知り学びを深めることができ良い実習となりました。

52回生 宮脇 望

小児看護学実習では病棟実習が6日間という短い間で、患児の三側面を理解し看護を展開していかなければなりません。専任実習指導者さんは、日々の学生や患児の状況を一番に理解しておられます。そのため、その日上手くいかなかったバイタルサイン測定をどのように工夫したら患児にとって苦痛なく行えるかという、小児ならではのディストラクションの方法を日々ご指導頂きながら工夫し、受け持ち最終日には患児は泣くことなく実施することができました。このように、専任実習指導者さんから日々一貫した指導を頂くことで自己の課題や看護観が明確になり、患児やその家族によりよい看護を提供できたのではないかと考えます。

52回生 杉野 加奈

「皆さん、お元気ですか。私たちは、今・・・」



7A 皮膚・泌尿・外科・呼外
平井 るり

混合病棟の7A病棟ではさまざまな疾患に向き合うことができます。私は2年間という短い間に、幅広く看護の仕事が学ぶことができました。カンファレンスの時間では、一人の患者さんに対してスタッフ全員でどのような看護が必要かを考え日々関わっています。スタッフ間の仲がよく協力的で仕事もしやすく、雰囲気の良い病棟です。



5B 循内・腎内・心外
中島 優

2年目看護師として、主に循環器内科、腎臓内科、心臓血管外科病棟で働いています。心電図モニターをつけている患者さんが多く、わからない心電図波形に出会うことがあります。そんな時はドクターがその場でわかりやすく教えてくれます。苦手意識を持ちやすい心電図ですが、必ず読み取れるようになりますよ。一緒に学びませんか。



編集後記

卒業生の皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？

「呉看護だより "Kure 鯉 恋 こい"」の第8号を発行することができました。

忙しく過ごされていると思いますが、「Kure 鯉 恋 こい」を開いて、学生時代を思い出し、少しでも癒やしてもらえたら嬉しいです。是非感想を下記メールアドレスにお寄せください。私たちが4月から54回生を迎え、新たな気持ちで頑張っていきます。

編集長：吉田 美栄

編集委員：1年生：佐藤 明紗美、永野 すずな、東 希美、野口 なな子

2年生：藤原 圭祐、藤川 梓、佃 由紀子、大田 孝子

3年生：原 遼、中金名 紗希、福田 裕美

入学してから1年が過ぎるのはあっという間でした。4月からは新しい後輩を迎えるので、今まで先輩方に教えていただいたことを伝えていきたいです。



独立行政法人国立病院機構

呉医療センター附属呉看護学校

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1 TEL. (0823) 22-5599/FAX. (0823) 22-5646

URL <http://www.kure-nh.go.jp> E-mail kuregaku@sc.kure-nh.go.jp